

1	チーム名（研究対象領域・教科） 高等部生活単元学習グループ
2	メンバー 高等部教員 5名
3	チームのテーマ 「生活年齢にあった生活単元学習の授業づくりのあり方について」
4	対象児童生徒に願う主体的な姿 高等部 2年、対象生徒 A 願う姿：自分で考え工夫して行動できる姿 状況に応じて、適切に相手とコミュニケーションをとることができる姿
5	仮説に至るまで ・社会に出ることを控えている高等部の生徒が将来を見据えて今学んでおこなうてはならないことは何か。教師側は、週時間の半数を占める各教科等を合わせた指導は重要であると認識しているが、では、どういったことを意識してどんな活動を授業に取り入れていけばよいのか。教師同士で授業作りに悩んでいて手探りな状況である。今年度も校内研修でお世話になる岩手大学の名古屋先生が提唱する「学校生活にテーマをもつ」というポイントから授業改善をしていきたい。
6	研究仮説 ・学級で一つのテーマのもと、集団の中で「自分に果たせる役割」を認識して、そのテーマを達成することを目指して取り組んでいくことで、自己・他者理解及びコミュニケーション能力が高まり、日々の生活に手応えとやりがいを感じられる主体的な姿（生徒）になるのではないかと。
7	研究実践の内容 (1) 生活年齢における授業（学部別）のイメージの意見交換 「学校生活にテーマをもつ」という観点から、各学部ごとの生活のイメージをそれぞれの先生方から意見を出し合った。 小学部 ：遊び、楽しい、ワイワイ 中学部 ：自分のやりたいことができる、難しい、思春期、子どもから大人に 高等部 ：働く、青春、自己決定 社会人になる さらに、グループで各ステージで押さえておくべきこと、どんな力が求められているのか意見交換した。 小学部：しっかり遊び込むことができる → 没頭できる力 中学部：やってみいたいことにチャレンジする → 自分の思いを発信できる力 高等部：人の役に立つ 地域で自立・社会参加する → 集団で自分の役割を果たせる力 ※小学部、中学部、高等部段階で踏まえていきたいことをしっかり意識しながら、日々の授業を作っていくことで、生徒一人一人に合った教育がなされ、生きる力につながっていく。 (2) 生活単元学習関連の文献から 各教科等を合わせた指導の充実 (東京都教育委員会) 各教科等を合わせた指導ガイドブック (京都府総合教育センター特別支援教育部) 生活単元学習を実践する教師のためのガイドブック (独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 領域・教科を合わせた指導ABC (名古屋恒彦) わかる・できる各教科等を合わせた指導 (名古屋恒彦) 上記の文献は研修を進める上で参考にした資料である。

(3) ねらいを立てた上での活動内容の選択

人の役に立つという観点を踏まえたテーマを意識した授業

単元名：「高等部生活をプレゼンテーションしよう」

・以下の4つのポイントを意識しながら、授業をデザインしていく。

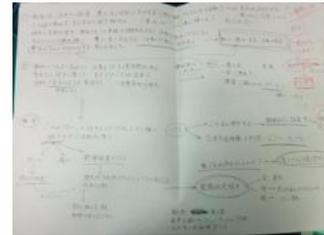
- ①子ども一人一人にあった活動
- ②みんなで協力できる活動
- ③やりがいを感じられる活動
- ④課題解決を伴う活動



・この単元では高等部の生活を知らない入試を控えた中学部生にプレゼンテーションして、学級の生徒同士で協力してのかかわりが増えたり、これまでの高等部生活を振り返りながら自分自身について見つめ直すことができる授業としたい。

(4) 手立てを考える（インシデントプロセス法を用いた）

- ・言葉と視覚的教材
- ・個の長所・得意なところを生かした役割分担
- ・集団で果たせる役割
- ・やるべきことの明確化



※1時間ごとのゴールを設定して、最終目標のプレゼンにつなげていく。



(5) 評価 VTRでの協議 実践例から

誰かのために活動をしたり、誰かの役に立ったと感じたときに達成感を得て、子どもの意欲がさらに高まる。活動を繰り返し行っていく中で、休み時間でも活動に取り組むことができてきた。授業以外でもそのテーマの魅力にのめり込んでいくことができた証拠である。また、友達に自分から声を掛けたり、協力して物事を進める場面が増えてきた。生活単元学習の授業以外でもそのような姿が見られてきた。例えば、作業学習で後輩に声を掛けたり教えたりすることも出てきたなど。

同じ目標に向かって一緒に進む仲間がいると、子どもは予想以上の力を発揮する

8 成果と課題

11月30日に来校していただいた名古屋恒彦先生からあったように、高等部で主となる各教科等を合わせた指導は作業学習である。それを踏まえた上で生活単元学習においてもテーマをもって活動を取り組んでいくことは生徒がやりがいをもって日々の生活を送ることができ有効であることが実感できた。今後も高等部らしい授業の展開を模索していくことが必要である。

今後の課題としては、各教科における生徒の実態を把握した上での授業づくりという点である。高等部の特徴である各教科制の教員の専門性を生かしながら、複数の教員で生徒をみていくというメリットをまだまだ生かしきれていないのではないかと思う。個別の指導計画を活用して一人一人の生徒を様々な角度でみていけるようにしていきたい。また、生活単元学習そのものの年間計画、時数を考えた構成を計画的に実施できていないのではないか。まだまだ使い勝手のよい授業になりがちではないか。学年、学部でもう一度高等部の生活単元学習というものを再考していかなければならないと感じる。そして、行事や各教科とのつながりを意識したテーマのある魅力的な学校生活にしていきたい。